

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 10月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690400058
法人名	医療法人厚生会
事業所名	グループホーム宝寿庵 (ほうじゅあん)
所在地	鹿児島県枕崎市寿町26番地1 (電話) 0993-72-0084
自己評価作成日	平成26年9月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住みなれた枕崎の地で、その人らしく普通に生活し、「今」を楽しみ、笑顔で暮らすことができるように、目と耳と心を最大限に活用した介護サービスの提供を、開業以来の理念に掲げ、利用者様第一主義をモットーに、日々、介護・支援の質の向上に努めています。利用者様の立場に立ち、利用者様のペースでゆっくり一緒に行動し、利用者様の尊厳を尊重し、気持ちに寄り添います。

当事業所では、利用者様に季節感を感じて頂くことを目的として、季節にあったイベントを開催しています。イベントにはご家族を招待し、希薄になりがちな利用者様とご家族の関わりを持つ機会を提供しています。また、各利用者様に担当職員を配置し、ケアマネージャーと共に介護計画の進捗状況を見守っています。2ヶ月毎に各利用者様の担当職員が、介護計画の進捗状況と生活の様子をまとめ、ご家族に書面にて報告しています。利用者様とご家族の関わりは勿論のこと、ご家族と職員の関わりも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

枕崎市の中心部に位置し、周辺には住宅や商業施設が立ち並び利便性が高い環境にある。古民家風の建物は落ち着いた雰囲気があり、リビングの窓越しには芝生の庭が広がり、遠く山並みの景色は自然豊かである。

最新のオール電化システムの対面式キッチンや暖房完備の浴室等、利用者の安全、安心を第一に考えた生活環境が整っている。

看護職員2名の配置があり定期受診にも同行しており、主治医からの密な情報を職員、家族で共有し日頃から利用者の健康管理が行き届いている。

入居時はリハビリパンツ使用の利用者が、排泄チェック表の活用と適時の個別誘導で殆ど利用者が布パンツへ移行、改善している。このことは、職員の根気強いケアの努力の成果と、家族のおむつ使用の経費軽減に大きく貢献している。

開設当所から、自治会を通しホームの通信「宝寿庵新聞」を地域に向け発信しており、ホーム行事の敬老会や運動会への参加呼びかけで多数の地域住民との交流も出来ている。夏休みには子供たちのラジオ体操の場としてホームの中を開放しており、子供達との触れ合いは利用者の楽しみになっている。

開設4年目を迎え少しずつではあるが、地域との交流も増えてきている。理念に掲げる利用者の「今」を楽しく笑顔で過ごせる様に、ホーム・家族・地域の三者が一体になった支援の取り組みを実践しているホームである。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開業時に設定した理念とケアの方針を継続目標とし、利用者様第一主義を実践している。理念とケアの方針はホール内に掲出し、就業時に各職員が確認している。	開設時に職員全員で作った理念である。根幹にある利用者の「今」を大切にゆっくり、焦らず優しさのある利用者本位のケアの実践は、職員に浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内に高齢者が少なく、同世代の方々との交流の機会は少ない。夏休みには、毎年、ラジオ体操の会場として開放し、子供会との交流は継続している。	地域とは町内会の回覧板を通して情報を共有し、ホームの敬老会や運動会へ地域住民を招いたり、地域の清掃活動に参加するなど交流が来ている。毎月、ボランティアによるハーモニカ演奏会は利用者の楽しみである。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症理解の周知の目的として、地元の中学校に職場体験の申し入れを行っている。また、地域包括支援センター後援の認知症家族会への協力を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の最終木曜日に開催。市福祉課、地域包括支援センターからも担当者を招き、ご家族と地域の代表者を交えて意見交換をしている。地域の代表者には、認知症介護の経験者もあり、体験談が介護・支援に役立っている。	毎回ではないが、行政へ案内をした上で、家族参加を重視し、祝日のイベントと合同開催する工夫をしている。平日開催より、多くの参加を得ている。ホームの現状報告や地域高齢者情報など認知症への理解を深める議題も取り上げ、意見交換の機会をサービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市福祉課と地域包括支援センターの担当者に、運営状況と待機者の報告を行っている。昨年の重要事項説明書の改訂に際しては、市福祉課に相談し、指導を仰いだ。	相談や報告以外でもホームの実情や様子をみて対応をしてもらっている。地域包括支援センターと連携して今後、認知症サポーター養成講座の準備を進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	明らかな身体拘束は勿論だが、行動を抑制するような、言動や態度にも注意し、介護・介助に取り組んでいる。身体拘束については、不定期だが、職員会議の議題にも取り上げ、周知徹底に努めている。また、法人内の勉強会にも参加し、職員の意識向上に努めている。	身体拘束については日々のケアの中で問題点や疑問は連絡帳に記録し、管理者の指導を仰ぎながら、職員全員が正しい理解とケアが出来るように取り組んでいる。日中の玄関の施錠はなく、帰宅願望の利用者に対しても一緒に庭を回るなどし、利用者の気持ちに寄り添い、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は勉強会や研修に職員を派遣すると共に、職員会議でも話し合い、意識の向上に努めている。利用者様が同じことを繰り返し要求しても、「さっきしたよ。」と否定せず、利用者様が納得する支援を心掛けている。入浴時や更衣時に身体観察を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加して、一定の知識習得は行っている。成年後見制度に関しては、対象となる利用者様がいらないが、社会福祉協議会の担当者に話を聞くなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約は管理者が担当し、利用契約書をはじめ、必要書類を説明し、理解し納得した上で締結している。昨年11月の重要事項説明書の改訂に際しては、説明及び理解の上、同意書も作成している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新しい取り組みとして、各居室に「連絡帳」を置き、ご家族に自由に記入してもらうようにした。また、運営推進会議の重要性をアピールし、同会議へのご家族の出席を推進している。面会時等の、ご家族への希望や要望の聞き取りは継続している。	面会時や年間行事である運動会やクリスマス会への参加時を、意見や要望の聞き取りの機会として大事にしている。各居室に「連絡帳」を置き家族、利用者の要望や意見を反映できるように積極的な取り組みもしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りなどで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、介護計画作成時も職員に意見を求め、提案を取り込むようにしている。	開設当所からの職員が殆どであり、利用者との馴染みの関係が出来ている。風呂の手すりの増設や畳の部屋からのスロープ導入など、現場の職員ならではの気づきやアイデアは即座に改善策に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間帯が偏らず、バランスのいい勤務体系になるようにしている。業務内容の変更や見直しについては、職員会議等で全職員の意見を聞き、合意を基本としている。職員の休憩スペースの確保が課題となる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列の介護老人保健施設の勉強会に職員を派遣し、他の職員にフィードバックしている。 また、GH連絡協議会等他団体の研修にも、積極的に職員を派遣し、スキル向上に寄与している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われている近隣GHとの交流会で、利用者様の交流と併せ、職員同士の交流や意見交換を行っている。ただ、地域内の介護事業所同士の交流は乏しく、今後の課題となる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ご家族から利用者様の現役時代や家庭での話も聞かせてもらい、その後の介護・支援に反映させるようにしている。利用者様が介護に支配さず、一緒に生活してるという印象を与えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族の思いや要望を聞いている。また、事業所からの希望も伝え、できる事できない事を含め、情報と認識の共有に努めている。利用者様の支援には、ご家族の支えが不可欠であることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの段階で、申込者がグループホームでの生活が適切か検討している。入所後は、入所前の環境を考慮し、急激な変化の印象を与えないように努めている。不安を感じさせないことを優先している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に無理強いすることは厳禁とし、利用者様の生活ペースを大切にしている。それぞれの利用者様に合ったことをしてもらっている。簡単な調理や花の手入れ等は、職員と一緒にやっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者様に担当職員を配置し、2ヶ月ごとに書面にて現状報告を行っている。報告書を通して、面会のお願いもしている。定期的な外出、外泊、外食に出られるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診やドライブ時に、自宅や出身地域周辺を回り、機会があれば身内や知人に会えるよう支援している。また、利用者様が希望するところがあれば、お連れするなど支援している。	毎週1回のドライブの日は、利用者の住み慣れた懐かしい地域へ出掛けたり、個別支援で盆や彼岸にはお寺を訪問する利用者もいる。家族の協力も得ながら馴染みの人や場との継続が途切れない様な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しとなり、利用者様同士の会話の機会を作っている。レクリエーション等は、全員の利用者様に声掛けをし、一日に何回か利用者様が同じ場所に集まる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院が主な契約終了の理由である。系列の医療機関や介護施設を斡旋し、その後も先方と連携をとり、状況に把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	巡視と見守りの元、利用者様の思うように過ごしてもらっている。お茶や食事を職員と共にし、会話を通して本人の希望や思いを聞き出すように努めている。	想いの伝達の出来る利用者は少なく、難しい利用者に対しては、表情や所作などから把握し、職員で共有している。食事時やレクリエーション等、楽しい時間の会話を大切にしながら想いの汲み取りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に入所前の話を聞き、また、他施設利用があった場合は先方の担当者へも聞き取りを行っている。看護職員が担当し、既往歴と現状の確認も行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、排泄チェック、食事の摂取量のチェックによる健康状態の把握を行っている。また、言動や表情に注意を払い、心身の状況把握にも努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の更新時には、全職員がその内容を確認し、情報を共有した上で、介護・支援に取り組んでいる。また、定期的なモニタリングを行い、職員からの意見を反映させている。また、利用者様に変化が生じた場合は、家族と相談し、介護計画を柔軟に変更している。	利用者毎に担当制を設け、密な情報を全員で共有し、家族などの意見・要望の聞き取りの下、介護計画の作成を行っている。個別性のある支援内容になっており、モニタリングは1ヶ月毎に行い状況に応じた介護計画の見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の見守りでは、現状の様子を見ると共に、介護計画の目標も鑑みて利用者様を観察するようにしている。日々のケア記録の内容も、介護計画の内容を反映したものとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の定期受診、理髪店等への送迎を行っている。高齢者でも活動しやすい時期には、花や野菜の苗付け、ドライブや花見等の屋外でのレクリエーションも積極的に取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、読み聞かせとハーモニカ慰問のボランティアを招き、認知症に理解のある方々との交流を行っている。また、夏休みには子供会にラジオ体操の会場として施設を提供し、地域の子供たちとの交流も継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際して、系列の医療機関に転院された利用者様に関しては、定期受診には看護職員が引率し、診察にも立会い、主治医との連携が取れている。	入居前のかかりつけ医の受診を継続しているが、殆どがホームの協力医への変更をしている。看護職員が中心となり、定期受診の付き添いや日頃の健康管理は安心できる環境にある。家族支援の場合も含めて、双方で受診結果の共有が出来ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護職員が配置されており、利用者様の変調時には即時対応できている。利用者様の定期受診には、看護職員が立会い、主治医の指示を的確に介護職員に伝達できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	過去の入院例は、協力医療機関である系列の医療機関で対応している。入院後は、管理者が連携室や担当看護師と連携し、状況の把握を行っている。入院中は、職員がお見舞いを兼ね、病室を訪ね、無理のない範囲で、声掛けなどを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護は検討中ではあるが、実施の予定はない。また、当事業所では、医療行為を伴う介護はできない旨を家族に説明し、了解を得ている。重度化した利用者様に関しては、系列の医療機関での受入れを含め、できる限りの支援を行っている。	医療処置を伴う介護や重度化した場合の対応についてのホームの考えや方針は、入居時に説明し、家族の同意は得ているがいずれも口頭のみである。現在も看取りの希望者がいることからホームとしての指針を明文化し同意を得る必要性を検討の方向ではある。	刻々と変化する利用者の身体状況を踏まえ、重度化や終末期に向けたホームの考えや対応を、口頭のみならず、明確に文書化し、同意を得る事で家族と方向性を共有できるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した場合は、救急車の要請を基本的な対応としている。職員の殆どが、病院及び介護事業所の経験者で、初期対応は習得している。AEDの講習も受講している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯と夜勤帯を想定した消火・避難訓練を年2回実施している。利用者の状況に合わせた避難方法が習得されている。事業所周辺に避難訓練参加協力の告知をしたが、協力を得ることが出来なかった。継続課題。	消防署立会いの訓練と、近隣住民の協力を得た訓練を年2回行っており、避難経路の一つである居室の掃出しの窓はベランダへ容易に避難できる造りになっている。地域への協力呼びかけは総会や散歩時など折をみて積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や研修等で、認識の習得は行われている。マニュアルも完備。利用者様を介護の相手と捉えず、人生の先輩として接し、個々の尊厳を尊重し、介護・支援に取り組んでいる。しかし、トイレ誘導時、さりげなく声掛けすることが少なくなっている。要注意。	トイレは立位の難しい利用者もあり、ドアは閉めずカーテンで対応しするなどの配慮をしている。日常の暮らしの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや優しい対応を常に意識し、実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりを通して、希望や要望を聞き出すように努め、伺いを立てながら自己判断できるよう支援している。利用者様の希望を優先し、介護・支援に反映させている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の生活の流れは設定しているが、基本的には利用者様の思いのままに生活して頂いている。急かすことなく、利用者様の生活のペースで支援。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣時、判断できる利用者様には衣服を選んでもらっている。起床時の整容やトイレ後衣服の整えは、自力で行うことを優先し、必ずフォローしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立を提供している。要望も適宜取り入れ、特に、誕生日等イベント時には、要望を反映した食事になっている。食事は、利用者様の隣に座り、共にしている。	栄養士が作成した献立はバランスのとれたメニューになっており、味覚や視覚は利用者の食欲に繋がっている。年間を通した季節を感じ取れる行事食の提供や誕生日の希望食などあらゆる食の場面で食べる意欲を引き出す工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、系列の事業所の栄養士に依頼している。各利用者様に合った食事量を提供し、水分補給では、お茶以外に紅茶やスポーツドリンク等も取り入れ、飽きないように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがいから、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄を徹底して実施している。うがいにはお茶を使用し、口腔内の殺菌、ウイルス感染の予防にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録から、個々の利用者様の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。また、自主的に排泄できる利用者様には、それを優先し、自立に向けて支援している。	排泄の自立に向けた支援はプランにも組み込み取り組んでいる。入居時はリハビリパンツの利用が多かったが、個別の排泄パターンの把握と適時のトイレ誘導で殆どが布パンツに改善されており、職員一丸となった努力が結果に出ている。オムツ使用に依る家族の経費軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食で牛乳を提供し、水分補給にも気をつけている。体操やレクリエーション等の運動も取り入れている。また、朝食後にはトイレ誘導し、排便の習慣を促している。必要に応じて、腹部マッサージを実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴支援を行っている。入浴時間は設定しているが、利用者様の希望があれば柔軟に対応している。異性職員の介助を拒否した場合は、適正に対応している。	浴室暖房を完備しており、冬場の温度変化に配慮した環境である。順番や異性介助も希望に応じて配慮しており、入浴がリラックスできて楽しい時間になるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やお茶の時間、レク等の利用様同士の関わりも重要視しながらも、利用者様は思いのままに過ごしている。夕食後は、各々のペースに合わせて就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬のみを与薬している。投薬に変更がある場合は、職員間で確実に申し送りが行われ、看護職員からの説明も実施される。与薬時は、服薬確認まで支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一例として、晩酌や夜食の希望があり、対応している。週一回のドライブや気候のいい時期は、庭に出てレクを行い、気分転換に寄与している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	殆どの利用者が、入所期間が長期になり、高齢化と併せ症状も進行しているため、入所時に比べ外出の機会は少なくなっている。週一回のドライブと近隣の散歩は、継続している。利用者様から外食等の希望がある場合は、ご家族に相談し、協力をお願いする場合もある。	日常的には、ホーム周辺を歩いたり、車椅子の利用での散歩を楽しんでいる。自宅に飼っている金魚を観に帰る利用者もいる。毎週ドライブの日も設けており、気候に応じ、芝生の庭でレクリエーションを行うなど、外気に触れ、できるだけホームにとじ込まない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族と相談の上、現金の持ち込み実績はない。現金の所持を希望する利用者様は殆どいないが、希望する場合は、ご家族に相談し、判断は委ねている。個人購入等に関しては、事業所が仮払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様の希望に応じて、電話や手紙の支援体制はできている。しかし、利用者様からの希望は無い。毎年、家族への年賀状は支援している。今後、2ヶ月毎のご家族への報告書に、利用者様の言葉を同封する予定である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、共用部共にゆとりある空間を設けてあり、利用者様の歩行や行動の支障となるものは出来る限り排除している。陽当りのいいリビングでは陽光を感じ、季節ごとに植栽を植え替え、季節を感じてもらえるように工夫している。地域の運動会やの卒園式に出向くことも季節感を感じる機会となっている。	リビングは天井が高く、和風の間接照明は程よい明るさで、清掃が行き届きホーム全体に清潔感がある。ソファのコーナーでは、テレビを観たり庭の景色や遠くの山々を眺めたりして季節を感じながら、利用者が思い思いの時間をゆったり過ごせる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングも広く、利用者様が一堂に会するスペースが確保されている。ホールも余裕のあるスペースが確保されており、職員の見守りの下、独りになれる空間がある。全ての居室がホールに面しており、居室で過ごす場合も安全は確保されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての利用者が在宅時に使用していた、馴染みのタンスを持ち込まれている。ご家族の写真を飾る方もおり、利用者様とご家族の思いが漂う居室の利用を支援している。	使い慣れた筆筒や家族写真などを持ち込み、個別性があり、利用者は自宅の一室の様に安心して暮らせるプライベート空間になっている。災害時にベランダに容易に避難できる掃出しの窓になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所時に比べ、残存能力が低下していることが現実だが、支援や介助を強化しつつ、「お手伝いをお願いします。」と声掛けし、職員と協働で簡単な作業を行っている。立って行う作業にも、安全性は十分に確保されているが、座位での作業が殆どである。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない